

【評価実施概要】

事業所番号	170401087		
法人名	有限会社いちわ薬品		
事業所名	グループホームいちわ2号館		
所在地	〒006 0031 札幌市手稲区稲穂1条1丁目9-15 (電話)011 694 3973		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤 1人, 常勤換算0,54人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(96,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(入居1年経過後)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		833 円	1ヶ月25,000円

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	1 名	要介護2	6 名			
要介護3	8 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	78 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おのでら内科クリニック・ゆき小児歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな郊外の住宅地に建つ民家風2ユニットで、広い前庭には木製のテーブル・イス・ブランコを設置し、近隣住民が散歩途中に一休みしたり、子供たちがブランコで遊ぶなど、さりげなく地域との接点を持てるよう作られている。また天気の良い日には外で食事をするなど利用者にも有効に使われている。管理者と職員は共に利用者の思いを大切に、特に平坦になりがちなホームでの生活に活気を与えるよう外出事に力を入れ、利用者の楽しみの支援を積極的にしている。運営推進会議は多彩なメンバーで2カ月に一度必ず開催し、活発な意見交換が行われている点と、朝・昼・夕の各食事は写真に残しており、食欲が出るよう盛り付けの美しさ・栄養バランスも一目瞭然で分かるのも大変評価できる。今後も期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善点は会議で話し合われており、外部評価結果については誰でもが手に取って見る事が出来るよう掲示している。今後は改善計画シートを活用し、さらに意欲的に取り組むよう期待します。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価については全体会議で職員に周知しているが、さらなる取り組みを期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に一度行われている運営推進会議では、家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・ホーム管理者の他、協力病院医師も参加し、行事予定と報告・健康管理の説明等、地域密着型ホームとしての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。利用者家族には会議毎に議事録を送付している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム便り『いちわ通信』を年4回発行。家族には月に一度、生活状況を詳細に手書きした手紙を、近況写真・食事メニュー表と共に送付しており、好評を得ている。必要に応じ、電話での報告もしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入。町内会の清掃・夏祭り・盆踊りに楽しんで参加し、行事等で地域と接点を持つ取り組みをしている。毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで地域の人たちと積極的に交流することに努めている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し『我が家より我が家らしい居場所となるように』と個人の尊厳を保ち、共に生活する理念をホーム内に掲出している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はカンファレンスや事業所内研修時に理念を共有し、日々のサービス実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入。町内会の清掃・夏祭り・盆踊りに楽しんで参加し、行事等で地域と接点を持つ取り組みをしている。 毎日の散歩や買い物、外出時の挨拶などで地域の人たちと積極的に交流することに努めている。		今後は町内会等の行事に参加するだけでなく、地域の方たちがホーム行事に参加するなど、相互訪問の良い関係を構築することを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価については全体会議で職員に周知している。外部評価結果については誰でもが手に取って見る事が出来るよう掲示している。		外部評価の結果については改善計画シートを活用し、さらに意欲的に取り組むよう期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に一度行われている運営推進会議では、家族代表・町内会長・民生委員・地域包括支援センター職員・ホーム管理者の他、協力病院医師も参加し行事予定と報告・健康管理の説明等、地域密着型ホームとしての活発な意見交換が行われ、サービスの質の向上と事業所の運営に活かされている。家族には会議毎に議事録を送付している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を報告するなどし、相談・助言・指導を受け、密に連携を取っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り『いちわ通信』を年4回発行。家族には月に一度、生活状況を詳細に手書きした手紙を近況写真・食事メニュー表と共に送付しており、好評を得ている。必要に応じ電話での報告もしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットに意見箱の設置。運営推進会議で外部に対し意見・苦情を表せる機会を設けている。また来所時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れるようにし、ケアに反映するようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を少なくするようにし、利用者と職員の馴染みの関係を大切にしている。その時々状況に合わせ、納得のいく説明をし、ダメージを少なくする取り組みにがなされている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1ヶ月に一度、事業所内研修会を開催し、ケアの充実に役立っている。</p> <p>年間研修計画書を作成し、外部研修にも積極的に参加出来るよう取り組んでいる。また必要に応じてOJTを行い職員の知識・技術の向上を図っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は区グループホーム管理者連絡会の代表、市グループホーム協議会の役員等もし、積極的に他グループホームの職員と交流する機会を作り、またサービスの質の向上に役立っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員は入居開始前に自宅や病院を訪問し、馴染みの関係を築き、その後ホーム見学をしてもらう等、安心して入居出来るよう家族とも十分な話し合いをし、支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>共に生活する中でコミュニケーションを取りながら、人生の先輩として得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をしている。常に尊敬の念を忘れずに感謝の気持ちを持つよう心掛け、共に学び支えあう信頼関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の様子や会話から本人の思い・希望をくみ取りICFの基本概念に沿った支援とともに、センター方式を使用したアセスメントを行っている。</p>		<p>現在以上にその人らしい生活が送れるように、カンファレンス等でさらに検討することを期待します。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の関わりの中から、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取っている。また家族からも情報・要望を聞き、カンファレンスや情報交換などで検討し、意見を反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の状態を詳細に記録し、毎月のカンファレンス時に職員で話し合い、一人ひとりの状態に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>毎月の外出行事・町内会・地域の行事の参加、日常的な散歩・買い物・通院時の送迎等、事業所の多機能性を生かし柔軟な対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携病院の医師の訪問診療は週一回。看護師は職員として常駐している。緊急時には医師・看護師とは、24時間連絡が付き体制が出来ている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、医師・看護師と対応についての確認をとっている。家族とはコミュニケーションを密にするようにしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。利用者本人のプライドや羞恥心を大切にし、プライバシーに関わる事は周囲に配慮しながら行っている。記録等の個人情報は事務所で厳重に管理している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まり事はなく、基本的に自由に過ごしている。本人の体調に配慮しながら出来るだけ個性のある生活を実施している。散歩・買い物・入浴等も希望に合わせて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に調理・盛り付け・配膳・後片付けをし、大家族のように和やかに食事をしている。三度の食事に関する一連の流れを一日の大切な活動の一つ考え、お互いに楽しみながら支援している。また食事前には嚥下体操を実施し、誤嚥の防止に役立っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、入浴したい日・希望する時間に入浴している。希望があれば毎日の入浴も可能。入浴を拒む利用者には言葉掛けや対応に工夫し、さりげなく入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・調理・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する場面を作り設定している。遠出の外出や地域行事参加等の楽しみ事も、本人と相談し支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう日常的に買い物や近隣散策に出かけている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、希望に沿った外出支援を心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一階玄関は防犯の為、深夜の数時間だけ施錠している。各ユニット入り口は24時間施錠していない。カギをかけないケアの大切さを理解し、鍵を掛けない自由な暮らしを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣住民の協力のもと、年2回の避難訓練を実施している。緊急災害時には自治消防団に協力依頼をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し把握している。看護師と介護食専門士の有資格職員が利用者一人ひとりの身体状況・嗜好を考慮した食事メニューを作り、栄養バランスに優れた食事を提供している。さらに食欲が出るよう、美しく盛り付けしている。地区保健センターの管理栄養士にも相談し助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室・廊下・階段には手すりが効果的に配置されている。日常生活の匂いや音(食事作りや掃除)で五感を刺激し、温度・湿度に気を配り快適な居住空間を作っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々に使い慣れたなじみの家具・調度品・生活用品を各家庭から持参。また写真・手芸作品等を飾り安心し、心地よく過ごせるよう工夫している。		

 は、重点項目。